



主力商品 鉛2次製錬による鉛インゴット製造

○本社所在地：京都府舞鶴市字溝尻 6 0 - 5 クラウンビル 3F

○事業概要：鉛2次製錬事業

○常時使用する従業員：25名（2025年5月時点）

○現在の売上高：60億円（2024年6月期）

○法人番号：1130001043570

○Web：https://www.sjr.co.jp/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
金村 峰土

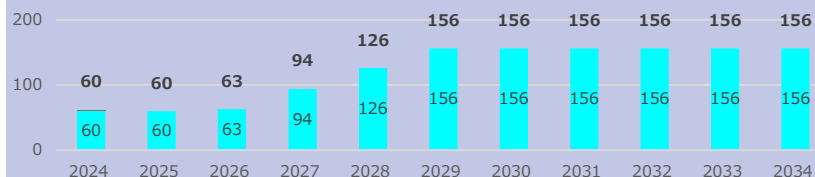
鉛バッテリーリサイクル率90%以上！循環社会への貢献

日本海精錬株式会社は鉛バッテリーをリサイクルする企業です。鉛バッテリーのリサイクル率は90%以上と言われております。当社は主力となる鉛二次精錬に加えて、新たにPPペレットの自社製造を実現させ、鉛バッテリーの再利用化を積極的に推進していきます。リサイクル率90%以上のリサイクル工場を目指し、循環社会への貢献と地域経済の発展・雇用促進に寄与して参ります。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

現在のサプライチェーンを強化し、従来の2.5倍を目標としたバッテリー仕入れを実現させる。これにより2028年に売上100億円達成、将来的に約2.5倍の150億円超を目指す。



課題

弊社は大きくバッテリーの解体分別と鉛精錬という2大工程があるが、バッテリーの解体工程は現状の4倍以上の解体・分別能力を誇る。それに合わせて購買力の強化と製錬処理能力の拡大が課題となる。

- ①鉛精錬工程の処理能力拡大
- ②鉛バッテリーの購買力拡大
- ③上記二つの実現のための費用捻出
- ④当社で現状6割程度であるリサイクル率の更なる拡大

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ①PPペレット工場の新設。鉛バッテリーからPP（ポリプロピレン）へのリサイクルの推進。（リサイクル率60%→67%）
- ②キュボラ（精錬工程の処理装置）の追加導入
- ③①のPPリサイクルで得た利益を鉛バッテリーの仕入れ原資として投入、購買力を強化して2.5倍の仕入れを実現させる。

実施体制

- ・代表の金村峰土が全体統括を担い、2026年内にPPリサイクル工場を新設。試運転・精度検証を実施。
- ・2027年より本格稼働。PPチップをペレット化して販売
- ・PPペレットの利益をバッテリーの仕入れに投入。仕入れ値を引上げ購買力を2.5倍に強化。
- ・2027年にはさらにキュボラ（立炉）を増設。2028年を目途に鉛の精錬能力を2.5倍まで拡大。

自由記載（例：売上高100億円実現に向けた具体的措置）

当社は売上高100億円への成長を通じて、鉛バッテリーの自社内リサイクル率90%以上の実現を目標に、循環社会に貢献していくことを目指す。
売上高100億円実現に向けた課題と解決措置は以下の通り。

【課題①：仕入れ購買力強化に必要な原資の確保】

鉛バッテリー仕入れの購買力強化に向けては、他社よりも高い買い付け価格を可能とする原資が必要となる。現状の2.5倍の購買力強化を実現するためには、2025年5月現在の買い付け額（1kg当たり110円）に5円以上を上乗せする必要がある、その投資額は年間約3億円が見込まれる。剰余金からの投資では困難。

【解決措置①：PPペレット製造の内製化と戦略的活用】

バッテリー部品の一部であるPP（ポリプロピレン）のリサイクル工場を新たに新設、PPペレット製造の内製化を実現する。バッテリー100トン当たりで計算すると、PPペレット製造は7トン（重量比約7%）が見込まれ、年間販売額は240百万円、想定利益は142百万円。自社内での鉛バッテリーのリサイクル率を従来の60%から67%向上させることで循環社会への貢献度を上げるとともに、PPペレット製造の内製化で生み出した収益を購買部門へ戦略的に投資し、鉛バッテリー仕入れの購買力強化につなげる。

- ・設備投資：ペレット工場の新設（約3.7億円）
- ・設備投資による効果：時間当たり1トン前後のPPペレット製造を実現。100トン前後は1交代制、250トン処理においては2交代制で対応。

【課題②：鉛精錬のキャパシティの限界】

PPペレット製造の内製化で仕入れ購買力を強化した結果、現状100～120トンの鉛精錬を250トンまで強化するキャパシティが不足する。

【解決措置②：鉛精錬のキューポラ増設と次世代型精錬工場の実現】（キューポラ＝鉛を精錬する立炉）

目標250トンの鉛精錬を実現するため、新たにキューポラの増設を行う。また単なる増設ではなく自動化・無人化を進め、現場作業員は管理者に移行させて安全で清潔かつ処理能力の高い次世代の精錬工場への変革を目指す。

- ・設備投資：キューポラの増設、自動化・無人化・AI搭載等の次世代型精錬工場（投資総額10億円超えの見込み）

上記取組みを経て売上高100億円を実現させた後、PE（ポリエチレン）のリサイクル（リサイクル率2.0%）とバッテリー液（希硫酸）のリサイクル（リサイクル率22.0%）の取組みに挑戦。90%以上と言われるバッテリーリサイクル率を、全て自社でリサイクル可能な体制を目指す。
リサイクル率90%以上の達成から、循環社会への貢献と地域社会の経済成長・雇用促進を目指す。